

# JAIR Newsletter

No.176 July 2023

日本国際政治学会

  
<https://jair.or.jp/>

## [目次]

巻頭言.....1	理事会便り.....4
山本吉宣先生のご逝去を悼む.....2	2023年度研究大会部会・共通論題プログラム...5
事務局からのお知らせ.....2	2023年度研究大会分科会プログラム.....9
2023年度研究大会に関するお知らせ.....3	編集後記.....18
ISA研究大会ラウンドテーブル開催報告.....3	

## ポスト「冷戦後」の中東への一視角

小野沢 透

湾岸危機を起点とする中東の「冷戦後」は、域外大国の中で米国が圧倒的な影響力を有する時代であった。それが今、終わろうとしている。これを米国のアジア・太平洋シフトに伴う中東からの軍事的撤退に帰因させるのはやや早計である。米国の影響力の後退は1990年代後半から長期的に進行してきたのであり、軍事的撤退はむしろその帰結であった。一方、米民主党系の政策エリートの間では、中東に関する米国のインタレスト定義を大幅に縮小すべきであるとする議論が一時は優勢になった。しかし結局、バイデン政権は、冷戦期以来のインタレスト定義を基本的に踏襲し、中東への関与を継続する姿勢に落ち着いている。ポスト「冷戦後」の中東は、米国の意思や行動ではなく、中東諸国のふるまいから理解する必要がある。



今日の中東を特徴づけるのは、多くの中東諸国と域外大国との関係を色分けするのが難しくなりつつあることである。冷戦期にも、欧州・アジアに比べると、中東諸国の東西陣営への帰属関係は弱く、しばしば流動的であった。米国の影響力が強まった「冷戦後」を経て、今日では、そのような色分けは中東の国際関係を分析する上で役に立たぬほど希薄化している。

かかる状況が出現したのは、多くの親米諸国が、米国離れの動きを強めているためである。親米アラブ国家の筆頭であったエジプトは、所謂「アラブの春」に続く混乱のなかで、急速にロシアに接近した。エジプトのロシアからの武器輸入額は米国からの軍事援助額を凌駕し、ロシアに全面的に依存する形で原発建設も進んでいる。そのようなエジプトに資金を提供しているペルシャ湾岸産油諸国は、サウジアラビアを筆頭に、人権問題等をめぐって米国との軋轢を抱えている。加えて多くの産油国は、世界的な脱炭素の流れの中で、莫大な石油収入を得られるうちに産業の多角化を進めようとしている。OPEC プラスが、米国からの反発をよそに、油価維持を最優先しているのはそのためである。22年12月の中国=アラブ諸国首脳会談では、拡大傾向にある経済関係に加えて、安全保障・エネルギー・食糧等の分野における協力関係の拡大が合意された。ごちなさが垣間見えた7月の米=アラブ首脳会談とは対照的であった。

とはいえ、親米諸国は、米国を見捨ててロシアや中国との関係一辺倒に向かっているわけでもない。これらの諸国は、米国から譲歩を引き出すカードとして、あるいは米国からの圧力をかわすためのヘッジとして、ロシアや中国との関係を強化しているように見える。冷戦期と違って、米国もかかる状況を容認せざるを得ない。一方で、中東域内のリージョナルな国際関係は、冷戦期から変わらず、多極的であり続けている。ポスト「冷戦後」の中東は、多くの域内諸国がグローバルな多極化を最大限に利用して国益を追求しようとする、いわば小ナセル乱立時代としてスタートしたと言えそうである。

---

## 山本吉宣先生のご逝去を悼む

---

山本吉宣先生が2023年7月7日に80歳で急逝された。2022年初冬に体調を崩されたが、この4月にはオンライン開催された山本ゼミ卒業生の研究会に元気に参加され、報告に対していつも通りの鋭いコメントと議論をされ、楽しそうにしておられた。今後の研究のご予定などにも言及されたことを思い出すと、ご逝去の衝撃と悲しさが一層強まる。2020年3月まで新潟県立大学教授として教育者としても現役でおられ、2021年に発表された「言説の対抗と米中関係―歴史、理論、現状」(PHP総研)では最新の研究を展開するなど、研究者としても最前線を走り続けた。

山本先生のご研究は1974年のミシガン大学でのPh.D論文が象徴するように、国際政治理論と戦争研究、フォーマル・セオリーを出発点としている。ご帰国後、理論研究、戦争・安全保障研究を進めながら、国際政治経済学にも研究を展開され、名著『国際的相互依存』(東京大学出版会、1989年)や『国際レジームとガバナンス』(有斐閣、2008年)など多くの業績を公刊された。21世紀に入りアメリカの単独主義的行動が強まり冷戦後の世界が変わり始めると、この状況を『「帝国」の国際政治学』(東信堂、2006年)で理論と現実分析を組み合わせて解明した。

この研究の幅の広さは教育者としてのご活躍にも反映されており、1975年に埼玉大学にご就職後、東京大学、青山学院大学、新潟県立大学で専任教員として指導され、多くの人材を育てられた。先生の指導の下で研究者になった者の研究分野も理論から戦争、安全保障、レジーム論、対外政策、さらには地域研究に至るまで幅広い。

1998-2000年期には日本国際政治学会の理事長を務められ、開催校方式から年1回3日間のコンベンション方式への本格移行、ペーパー提出の義務化、英語機関誌の発刊準備など、転換期を指揮された。

穏やかでフランクなお人柄で多くの学生を研究者の世界に導いた山本先生は、やはりなんと言っても研究の人であった。駒場時代の研究室は研究書であふれかえり、机の上にもうずたかく雑然と積み上げられた研究書や論文が山をなしていた。目の前の僅かなスペースで寸暇を惜しんで日々執筆をしておられた。常に最新の研究を追い、国際情勢の現実にも緻密な目配りをしておられたが故に国際政治学のあらゆる議論に精通しておられた。そして、どんな国際政治学の対象に対しても全体を俯瞰し、エッセンスをわかりやすくまとめて提示するという離れ業を為した。学生が生煮えの研究発表をすると「よくわかんないんですけど・・・」という前置きからコメントを始め、問題を整理しなおし、不足している情報を補って、研究の方向性を示してくださった。研究を教育に還元することを身をもって示しておられた。

まだまだずっと見守っていただけたらと思いついていただけに、ご逝去は残念でならない。研究に没頭することが難しい時代ではあるが、山本先生にご恩を返すためにはおもしろい研究を進めるほかない。

(森井裕一)

---

## 事務局からのお知らせ

---

### 1. 監査の実施

5月初旬、2022年度事業報告書および計算書類に関する監事による監査を、新型コロナ・ウィルス感染症の拡大を考慮し、会計事務所の助言に基づいて、書類の郵送にて実施しました。監査の結果、2022年度の事業報告および決算書類は適正であることが確認されました。

### 2. 2022年度事業報告書・決算書類の承認

6月25日に開催された定時評議員会にて、2022年度の事業報告書および決算書類が承認されました。

### 3. 新入会員の承認

6月11日に開催された第6回理事会で入会申込書等が回覧され、計29名の新入会員が承認されました。会費の納入をもって正式に会員となりますので、入会を承認された方々は会費を納入してくださいよう、お願いいたします。

### 4. 学生会員に対する大学院生資格の確認書類の提出について

本学会の学生会員については、年会費をお支払いいただく際、大学院生であることを証明する書類(学生証、在学証明書等の写し)の提出をお願いしております。ご提出のほどお願い申し上げます。

2022-2024年期中理事長 飯田敬輔  
2022-2024年期中事務局主任 池内恵

---

## 2023 年度研究大会に関するお知らせ

---

2023 年度の研究大会は対面で開催いたします。会員の皆様におかれましては、ぜひ積極的にご参加くださいますよう、お願い申し上げます。大会の詳細については、今後、学会ホームページおよび会員メーリングリストなどを通じてお知らせいたします。

◆開催日および開催場所

11 月 10（金）～12 日（日）福岡国際会議場

\*会場へのアクセス <https://www.marinemesse.or.jp/congress/access/>

◆懇親会の開催について

大会 2 日目の共通論題終了後、軽食を提供する形での開催を予定しています。

◆大会 2 日目について

福岡大会においては、近年の開催方式を踏襲し、大会 1 日目に分科会を 1 セッション、2 日目に分科会を 2 セッション開催します。また、今年度は懇親会を開催することになりましたので、スケジュールの都合上、昼食休憩時間など 2 日目の大会進行が例年と異なります。後日発送の大会プログラムにて、詳細をご確認下さい。

◆大会当日までのスケジュールは概ね以下のようになります。

【8 月下旬】

○「2023 年度研究大会のご案内」の郵送と学会 HP 上でのお知らせ

・部会および分科会のプログラムと大会の詳細をご案内するとともに、登録申し込みサイトをオープンいたします。

【10 月上旬】

○「報告要旨」のアップロードの開始

（報告要旨集については、昨年に倣い紙媒体では配布せず、ウェブサイトに掲載します。）

【10 月下旬】

○「報告ペーパー」のダウンロード開始

◆大会についての問い合わせ先

福岡大会実行委員会

[jair2023fukuoka★gmail.com](mailto:jair2023fukuoka@gmail.com)

（★を@に置き換えてください。）

充実した大会になりますよう準備を進めて参りますので、会員の皆様には引き続きご理解とご協力をお願い致します。

2023 年度研究大会実行委員長  
渡邊 智明（福岡工業大学）

---

## ISA における日本国際政治学会主催のラウンドテーブル開催報告

---

2023 年の米国国際関係学会（ISA）の研究大会は、カナダ・モントリオール市にて 3 月 15 日～18 日の期間、全面対面形式で開催された。日本国際政治学会（JAIR）の貢献として、パートナー機関ラウンドテーブルを設置することが ISA によって了承され、3 月 16 日午前 8 時 15 分～10 時の時間帯で、マリオット・シャトーシャムプレー・ホテルの会議室を会場として開催された。同ラウンドテーブルは、“A New Cold War and the Possibility of De-globalization in the Asia-Pacific（アジア太平洋地域における新冷戦と脱グローバル化の可能性）”という論題を掲げ、事前にその要旨とパネリストが ISA 大会委員会の査読を経て実現したものである。その内容は以下のようにまとめられる。

2022 年 2 月、ロシアはウクライナ侵攻を開始し、これを受けて西側諸国はウクライナに対する支援の一環として、ウクライナへの武器の供与と対ロシア経済制裁を実施している。一方、それ以前から燻る米中対立は、安全保障上の懸念から貿易と投資に関する規制を双方から誘発している。ふたつの大國間対立は、全世界に影響を及ぼし、とりわけ欧州およびアジア太平洋地域において経済冷戦の懸念を惹起して、安全保障と経済の関連に関する学術的関心を再燃させている。こうした状況を受けて本ラウンドテーブルは、大國間対立が地域経済に与える影響に着眼し、対立がもたらす地域経済への分断圧力、関係国の対応、地域協力の持続と関係改善に向けた地域機関あるいはグローバル制度の貢献、アジア太平洋地域とヨーロッパとの相違などの争点について議論を行った。その過程で、複数の理論的レンズを通じて、国際的観点および各国固有の

立場から議論を行い、さまざまな将来シナリオを吟味しつつ、安全保障と経済のリンケージについて検討した。質疑応答では、会場から示唆に富む質問・意見が出され、パネリストは丁寧に応答し、議論を一層深めた。ほぼ満席の中で開催された本ラウンドテーブルは、学術の発展に寄与したと同時に、JAIR と ISA の機関間関係をより緊密かつ建設的なものにしたと言える。

パネリストの氏名(所属)・担当領域は以下のとおりである。飯田敬輔会員(東京大)——日本、勝間田弘会員(東北大)——東南アジア、廣野美和会員(立命館大)——中国、Phillip Y. Lipsy(トロント大学)——米国、Jongryn Mo(延世大)——韓国、片田さおり(南カリフォルニア大)——地域機関・グローバル制度、鈴木基史会員(京大)——司会進行。

(鈴木基史)

---

## 理事会便り

---

### 国際交流委員会からのお知らせ

- 2023年3月、モンリオールで開催されたISAにおいて、日本国際政治学会の主催でラウンドテーブルを開催いたしました。詳細につきましては、本ニューズレターに掲載された鈴木基史会員(京都大学)の報告をご参照ください。
- 2022年度第2回国際学術交流助成は、審議の結果、向山直佑会員(東京大学未来ビジョン研究センター)、金芽凜会員(高麗大学)への助成が決定いたしました。ISAに参加した両会員より、報告書を提出いただきました。

国際交流委員会主任 楠 綾子

---

### ISA 学会およびワークショップに参加して

---

金芽凜(高麗大学)

この度、「国際学術交流助成」からの支援を頂き、International Studies Association の IPE が主催したワークショップ(カナダ、2023年3月)に参加した。ワークショップでは、小泉政権期に始まった経済連携協定の決定システムのメカニズムについて分析した研究結果を報告した。本研究は、「なぜ経済連携協定や貿易の自由化に反対していた関連アクターは『EPA/FTA 推進』政策を抑えなかったのか」という疑問から始まった。さらに、小泉政権が発足する前から経団連から FTA 推進が要求され、外務省の青書と経済産業省の白書でも「EPA/FTA 推進」の必要性を認めていたが、小泉政権になってからそれが推進されたことに疑問を抱いた。

研究結果、小泉政権期に構築された FTA/EPA 推進における政策決定システムによって、FTA/EPA が推進されたことを明らかにした。ここで、FTA/EPA 推進における政策決定システムというのは、各省の立場や意見の不一致を調和し、専門性を高めたシステムである。つまり、経済連携促進関係閣僚会議が開設されたことと、人事を通じて農水族の影響力を抑えたこと、そして経済連携協定について各省が独自で研究して戦略を立てていたが小泉政権から各省が集まって意見を交換する場が出来たことによって早期に FTA/EPA 推進できた。

報告後、様々なバックグラウンドの研究者らから

理論的な分析枠組みなどに関するアドバイスやコメントを頂いた。そして、個人的にも本研究の意義と限界について改めて考えることができた。とくに政策決定におけるシステム構築の重要性や限界について改めて考えた。小泉政権に関する様々な研究の中で大部分が小泉純一郎という個人のリーダーシップあるいはポピュリズムに焦点をあてている。しかし、リーダーシップなどはある意味、偶然的な要因である。国の政策が偶然的な要因によって決められたり変わったりすると社会は不安定になる可能性が高くなり、予測できない社会になるであろう。学問の存在意義が諸問題を解決させ、より納得や予測できる世の中を構築することであると思うと、偶然的な要因に左右されない政策決定システムを構築することが重要である。無論、一度構築されたシステムが時代や環境の変化に後れを取り、適切な機能を果たせない場合もあるため、今後とも様々な事例を分析して政策決定システムの類型化およびその発展段階を学術的に分析し続けたい。

---

### 東アジア歴史的国際関係論の高まり

---

向山直佑(東京大学未来ビジョン研究センター)

このたび、日本国際政治学会の国際学術交流助成をいただき、カナダ・モンリオールで開催された International Studies Association の年次大会に出席した。同学会が国際関係論で世界最大の学会であるこ

とは説明を要さないが、私は2022年にナッシュビルで開催された前回大会以来、2回目の対面参加であった。昨年がパンデミックを挟んで最初の大会であったが、ナッシュビル郊外のアポカリプス後の核シェルターのような巨大なホテルでの開催だったのに対し、今回はモントリオール中心部の3つのホテルでの開催ということで、雰囲気は大きく異なったが、いずれにしても海外の研究者仲間と1年ぶりにキャッチアップする大変貴重な機会であった。

今回私が発表者として参加したパネルは、“Historical state formation in East Asia: New developments in theory and empirics”というテーマで、私は“The bottom-up formation of territory: Conflicting spatial imaginaries of the Shogunate, domains, and villages in early modern Japan”というタイトルのペーパーを発表した。本パネルは初めて私が自身で企画し、参加者を集めたものであり、その過程から勉強になる点が多かった。近年、ヨーロッパやオーストラリアといった地域の学界で、歴史的国際関係論とグローバル国際関係論という2つのトレンドが注目を集めている。前者は歴史的な事例を用いて国際関係論を論じようという試み、後者は欧

米ばかりに偏らず、幅広い地域の事例を分析の対象としようという運動である。イギリス留学を通じてこの両者に強い関心を持つようになった私は、学位取得後の新しいプロジェクトとして「日本近世の主権領域秩序」の研究を開始しており、今回もその一環で、他の東アジア諸国を対象としている研究者を集めてパネルを構成した。他の発表は、日清戦争や清仏戦争における朝鮮とベトナムの役割に関する研究、皇帝の正統性と朝貢回数に関する計量分析、中華民国時代の気象台と領域形成の関係など、多彩で実に興味深い研究ばかりで、今後の研究協力のきっかけとなりうる素晴らしい機会となった。

ウクライナ侵攻による原油価格の高騰によって、航空券は近年稀に見る値上がりを見せている。日本に住む（特に若手の）研究者にとって、海外学会参加へのハードルは上がっており、それを緩和する策として、国際学術交流助成は非常に重要な意義を有する。ご支援くださった日本国際政治学会と関係の先生方・事務のみなさまに心から感謝申し上げますとともに、今後の研究活動によって国内学界に還元できるように努めたい。

## 広報委員会からのお知らせ

学会ウェブサイトでは、会員の皆様からのシンポジウム等のお知らせや新刊紹介などを随時掲載しております。情報交換・共有の場としてご活用ください。掲載を希望される場合は、ウェブサイトの「お知らせ投稿フォーム」(<https://jair.or.jp/membership/information/form.html>)をご利用のうえ、ご投稿ください。統一的な記録を残していく必要がありますので、お手数ですが、上記のフォームへの記載をお願いいたします。パスワードは、「オンライン会員情報管理システム (e-naf)」内に掲載されております。e-naf にログインいただきご確認ください。

その他、ニューズレターやウェブサイトに関してお問い合わせ等がありましたら、広報委員会 (jair-pr☆jair.or.jp) にご連絡ください。(☆を@に置き換えてください)

広報委員会主任 倉科一希

## 2023 年度研究大会 部会・共通論題プログラム

※以下のプログラムは暫定版（7月末時点）です。

第1日 11月10日（金）13:00～15:30

### 午後の部会（13:00～15:30）

#### 部会1 「国際河川を巡る協調と対立」

司会 星野 昌裕（南山大学）

報告 山田 哲也（南山大学）

「国際河川の規範構造——航行利用と非航行利用」

地田 徹朗（名古屋外国語大学）

「日本によるアラル海救済支援の展開とその教訓」

ダルウィッシュ・ホサム（アジア経済研究所）

「ナイル川の水資源をめぐる政治状況の再編における非流域国の役割」

討論 岩下 明裕（北海道大学）

#### 部会2 「決済制度の政治経済学——デジタル通貨の意義の現状と展望」

司会 田所 昌幸（国際大学）

- 報告 長谷川 将規 (湘南工科大学)  
「デジタル人民元の地政学——地政学的な含意」  
江頭 進 (小樽商科大学)  
「国際金融秩序における仮想通貨のインパクトのシミュレーションモデル」  
川波 竜三 (大阪国際大学)  
「暗号資産市場の動揺と主権国家」
- 討論 鈴木 一人 (東京大学)  
相良 祥之 (アジア・パシフィック・インスティテュート)

### 部会 3 「COVID-19 と国際労働移動」

- 司会 首藤 もと子 (筑波大学)
- 報告 岡部 みどり (上智大学)  
「移民外交のパズル——国家、EU、グローバル政治空間における移民管理の相互関係：  
COVID-19、ウクライナ危機の影響を中心に」  
小川 玲子 (千葉大学)  
「ケア労働者の国際移動と COVID-19」  
手塚 沙織 (南山大学)  
「パンデミックにおける国境管理をめぐるアメリカ政治」
- 討論 明石 純一 (筑波大学)  
小松 志朗 (山梨大学)

### 部会 4 「自由論題—国際秩序の形成、含意、変容—歴史と現在」

- 司会 篠原 初枝 (早稲田大学) (討論を兼ねる)
- 報告 服部 聡 (大阪大学)  
「国際連盟による経済秩序の形成」  
舒 旻 (早稲田大学)  
「『自由で開かれた国際秩序』と東アジア——ボーダーランドの視点から」  
高橋 知子 (京都大学)  
「多数派から離れること——国連における中国とグローバル・サウスの事例から」
- 討論 大平 剛 (北九州市立大学)

## 分科会セッション A (15:45~17:45) 別掲

---

第 2 日 11 月 11 日 (土) 9:30~12:00 16:00~18:45 (共通論題)

---

### 午前の部会 (9:30~12:00)

#### 部会 5 「理論にとっての地域、地域にとっての理論」

- 司会 溝口 修平 (法政大学)
- 報告 玉置 敦彦 (中央大学)  
「同盟論から見るウクライナ戦争」  
政所 大輔 (北九州市立大学)  
“Justifying Intervention: Russian Invasion of Ukraine and Legitimacy Claims”  
中村 長史 (東京大学)  
「『正しい終戦』論の類型化——ロシア・ウクライナ戦争とユス・ポスト・ベルム」
- 討論 山添 博史 (防衛研究所)  
加藤 美保子 (広島市立大学)

#### 部会 6 「国際機構と国際政治」

- 司会 植木 安弘 (上智大学)
- 報告 都築 正泰 (上智大学)  
「ウクライナ危機下の国連安保理改革——アメリカの『積極的』姿勢はどのような政治力学を生むのか」

和田 洋典 (青山学院大学)  
「競合レジームと主要国際経済機関のつながり——正統性源泉として」  
真嶋 麻子 (日本大学)  
「開発支援のローカライゼーションからみる国際機構の役割」  
討論 竹内 俊隆 (京都外国語大学)  
勝間 靖 (早稲田大学)

#### 部会7 「キューバをめぐる国際政治」

司会 宮地 隆廣 (東京大学)  
報告 ロメロ・イサミ (帯広畜産大学)  
「池田政権とキューバ革命——砂糖と米国の狭間で」  
大澤 傑 (愛知教育大学)  
「キューバにおける基地政治の変容」  
小池 康弘 (愛知県立大学)  
「ポスト・カストロ時代におけるキューバの『革命外交』」  
討論 松本 八重子 (亜細亜大学)  
森口 舞 (名城大学)  
上村直樹 (南山大学)

#### 部会8 「『現実主義』の国際比較」

司会 中本 義彦 (静岡大学)  
報告 島村 直幸 (杏林大学)  
「アメリカのリアリズム——古典的リアリズムからネオクラシカル・リアリズムまで」  
張 帆 (財団法人勤務)  
「改革開放以降の中国における『現実主義』の展開——日中比較の視点からの考察」  
大山 貴稔 (九州工業大学)  
「醸成された『現実主義』——戦後日本における重層的人脈の生成と展開」  
討論 村田 晃嗣 (同志社大学)  
岡垣 知子 (獨協大学)

#### 部会9 「ウクライナ戦争の多角的検討」

司会 吉川 元 (広島市立大学)  
報告 兵頭 慎治 (防衛研究所)  
「ウクライナ戦争とロシアの将来」  
田中 極子 (東洋英和女学院大学)  
「ロシアによるウクライナ侵攻から見る国連の機能」  
益尾 知佐子 (九州大学)  
「中国の内政とロシア=ウクライナ戦争」  
討論 佐渡 紀子 (広島修道大学)  
小森 宏美 (早稲田大学)

#### 部会10 日韓合同部会 “Nuclear Weapons and the Foreign and Security Policies of Japan and South Korea” (英語で実施)

Chair:

IIDA Keisuke (JAIR President, University of Tokyo)

Speakers:

KURITA Masahiro (National Institute for Defense Studies)

“Revisiting the Evolution of Nuclear Strategies in South Asia and Its Theoretical Implications”

JEONG Hanbeom (Korea National Defense University)

“Korea-US Nuclear Consultative Group and NATO Nuclear Planning Group”

KIM Inwook (Sungkyunkwan University)

“Theorizing the Unthinkable: Nuclear Arms Control between the US and North Korea”

Discussant:

MICHISHITA Narushige (National Graduate Institute for Policy Studies)

SUK Juhee (Northeast Asia History Foundation)

分科会セッション B (12:15~13:45) 別掲  
分科会セッション C (14:00~15:30) 別掲  
総会 (15:30~16:00)

【共通論題】「イラク戦争から 20 年—日本の国際政治学を考える」(ラウンドテーブル方式) (16:00~18:45)

司会 酒井 啓子 (千葉大学)  
報告 三牧 聖子 (同志社大学)  
「『テロとの戦い』の帰結とむきあうアメリカ、むきあえないアメリカ」  
錦田 愛子 (慶應義塾大学)  
「震源地としての中東——イスラーム主義とテロとの闘い」  
大矢根 聡 (同志社大学)  
「アメリカ IR の認識論と日本の IR の現象論? (仮)」  
梅本 哲也 (静岡県立大学)  
「過渡期としてのイラク戦争——国際秩序の変動と日本の安全保障核兵器問題」  
藤原 帰一 (東京大学)  
「イラク戦争が国際政治に残したもの」

懇親会 (19:00~20:30)

---

第 3 日 11 月 12 日 (日) 14:00~16:30

---

分科会セッション D (09:30~11:00) 別掲  
分科会セッション E (11:15~12:55) 別掲

部会 11 「『核のタブー』と国際関係」 \*非登壇共著者

司会 山田 康博 (広島市立大学)  
報告 松村 尚子 (神戸大学)、\*多湖淳 (早稲田大学)、\*Joseph M. Grieco (Duke University)  
「Policy Cues and Public Support for Nuclear Sharing: Evidence from a Survey Experiment in Japan」  
石川 卓 (防衛大学校)  
「核のタブーか、アイロニーか? ——揺さぶられる核秩序の中で」  
梅原 季哉 (広島市立大学)  
「非核三原則という歴史的逆説——規範論からのアプローチ」  
討論 足立 研幾 (立命館大学)  
遠藤 誠治 (成蹊大学)

部会 12 「国際関係史研究と『社会的なもの』」

司会 大津留 (北川) 智恵子 (関西大学) (討論を兼ねる)  
報告 溝口 聡 (関西外国語大学)  
「ハワイの沖縄系コミュニティと沖縄帰属問題——移民史と外交史の関係性の観点から」  
小野坂 元 (日本国際政治学会会員)  
「疎遠な国際機関を協力関係に埋め込む国際 NGO——日中戦争期の ILO、中国 YWCA、国際労働組合連盟の事例から」  
鶴見 太郎 (東京大学)  
「あるロシア・ユダヤ人のなかの国際関係——D・S・パスマニク『クリミアにおける革命期』を読む」  
討論 小林 知子 (福岡教育大学)

部会 13 “Enhancing Australia-Japan Cooperation: New Approaches to Minilateralism” (英語で実施)

司会 畠山 京子 (新潟県立大学) (討論を兼ねる)  
報告 David Envall (Australian National University)  
“Australia, Japan and Minilateralism in the Economic-Security Nexus”  
Thomas Wilkins (The University of Sydney)  
“Australia, Japan and the Revival of Indo-Pacific Minilateralism”



廣野 美和 (立命館大学)  
“China-Japan-South Korea Minilateralism”

討論 佐竹 知彦 (青山学院大学)

#### 部会 14 「グローバル・サウス、その意味、共通点、多様性」

司会 小林 昭菜 (多摩大学)

報告 武内 進一 (東京外国語大学)

「アフリカが求める国際秩序」

浦部 浩之 (獨協大学)

「ラテンアメリカにおける国際秩序と覇権主義への対抗——地域間外交と社会運動」

宇山 智彦 (北海道大学)

「『ポストソヴィエト』と『グローバルサウス』の狭間の中央アジア——地理的概念の政治的機能」

討論 竹中 千春 (立教大学)

白戸 圭一 (立命館大学)

#### 部会 15 「いま戦間期が問いかけるもの」 (市民公開講座を兼ねる)

司会 北村 厚 (神戸学院大学)

報告 細川 真由 (京都大学)

「戦間期ヨーロッパ国際秩序の形成とフランス外交——国際連盟をめぐるフランス政府の認識に着目して」

藤山 一樹 (大阪大学)

「イギリスの対独宥和・再考——二人のチェンバレンと戦間期ヨーロッパ秩序」

樋口 真魚 (成蹊大学)

「日本外交におけるワシントン体制と国際連盟体制」

討論 田嶋 信雄 (成城大学)

林 忠行 (京都女子大学)

---

### 2023 年度研究大会 分科会プログラム

---

※以下のプログラムは暫定版 (7 月末時点) です。

◆11 月 10 日 (金)

分科会セッション A (15:45~17:45)

A-1 欧州国際政治史・欧州研究分科会 I 責任者 小川 浩之 (東京大学)

テーマ 戦後欧州国際政治の思想的、イデオロギー的再検討

司会 鳥潟 優子 (同志社女子大学)

報告 窪内 尊之 (早稲田大学/ソルボンヌ・ヌーヴェル大学)

「第二次世界大戦後のフランスと冷戦の起源を巡って——ブルム＝バーンズ協定の再検討 1945-1946 年」

川嶋 周一 (明治大学)

「帝国、ヨーロッパ、国家の終わり——アレクサンドル・コジェーブのヨーロッパ観と統合の歴史的位罫」

アントワン・ロート (東北大学)

「西洋国際社会における政治的急進主義の台頭と文化的分裂」

討論 工藤 芽衣 (帝京大学)

小窪 千早 (静岡県立大学)

A-2 トランスナショナル分科会 I 責任者 細田 晴子 (日本大学)

テーマ 国際難民保護レジームの課題と挑戦

司会 小川 裕子 (東海大学)

報告 柄谷 利恵子 (関西大学)

「第 3 国定住受入と UNHCR——難民レジームにおける負担と責任の再検討」

上野 友也 (岐阜大学)

「集団安全保障レジームと難民保護レジームの補完と相克」

大道寺 隆也 (青山学院大学)

「難民保護レジームにおける人道主義——移動者の『当事者性』回復に向けた理論と実践」

討論 小林 綾子 (上智大学)

赤星 聖 (神戸大学)

**A-3** 東南アジア／日本外交史合同分科会 責任者 青木 (岡部) まき (アジア経済研究所)  
中島 琢磨 (九州大学)

テーマ 東南アジアの現在と日本

司会 青木 (岡部) まき (アジア経済研究所)

報告 早川 修 (立命館アジア太平洋大学)

「2023年タイ総選挙の意義」

井原 伸浩 (名古屋大学)

「シンガポールの外国干渉対策法 (FICA) における『干渉』行為の定義」

服部 龍二 (中央大学)

「ミャンマー・クーデターと日本外交——2021-2023」

討論 永井 史男 (大阪公立大学)

板谷 大世 (広島市立大学)

中西 嘉宏 (京都大学)

**A-4** 環境分科会 I 責任者 高橋 若菜 (宇都宮大学)

テーマ 気候危機に立ち向かうグローバルガバナンス

司会 高橋 若菜 (宇都宮大学)

報告 河越 真帆 (神田外語大学)

「EU が先導する気候変動対策——国際航空と国際海運の事例」

沖村 理史 (広島市立大学)

「気候変動問題における多様化した目標のガバナンス」

尾身 悠一郎 (一橋大学)

「『1.5°C』下における国際政治学と日本国際政治学会の在り方」

討論 市川 颯 (東洋大学)

太田 宏 (早稲田大学)

**A-5** 政策決定分科会 I 責任者 齊藤 孝祐 (上智大学)

テーマ 再考：戦後米華関係—米軍の台湾駐留と“チャイナ部隊”の沖縄駐留をめぐる交渉の再検討—

司会 川名 晋史 (東京工業大学)

報告 五十嵐 隆幸 (防衛研究所)

「台湾と米軍基地——台湾駐留米軍をめぐる中華民国政府内の政策決定過程」

波照間 陽 (成蹊大学)

「米華余剰物資売却協定と沖縄における『チャイナ部隊』の駐留」

討論 野添 文彬 (沖縄国際大学)

川名 晋史 (東京工業大学)

## ◆11月11日 (土)

### 分科会セッション B (12:15~13:45)

**B-1** トランスナショナル分科会 II 責任者 細田 晴子 (日本大学)

テーマ グローバルメディアの進化：民主主義における課題と展望

司会 市原 麻衣子 (一橋大学)

報告 RASIT Huseyin (立命館大学)

“Miscommunication, Disinformation Technologies, and Bad Media”

大河原 健太郎 (株式会社原田武夫国際戦略情報研究所)

「AI論と『ポスト真実の政治』——ワシントン襲撃の自己正当化を事例に」

討論 市原 麻衣子 (一橋大学)

森口 (土屋) 由香 (京都大学)

- B-2** ジェンダー分科会 責任者 古沢 希代子 (東京女子大学)  
 テーマ 性と身体をめぐる政治学  
 司会 古沢 希代子 (東京女子大学)  
 報告 中川 香須美 (パンニャサストラ大学)  
 「代理出産ツーリズムと生殖技術——カンボジアを事例に」  
 中村 文子 (山形大学)  
 「武力紛争下の人身売買——ウクライナ侵攻から逃れる女性を中心に」  
 ゴンザレス・プジョル、イバン (Iván González Pujol) (カタルーニャオープン大学)  
 “Analyzing the Intersection between Japan’s Domestic Politics, National Interests and the International Protection of Sexual Minorities’ Rights”  
 討論 大野 聖良 (お茶の水女子大学)  
 片柳 真理 (広島大学)  
 本山 央子 (お茶の水女子大学)
- B-3** ロシア・東欧分科会 I 責任者 長谷川 雄之 (防衛研究所)  
 テーマ 自由論題  
 司会 湯浅 剛 (上智大学)  
 報告 堀田 主 (慶應義塾大学)  
 「ソ連外交と人権——CSCE ウィーン再検討会議における東西交渉、1986-1989年」  
 齋藤 竜太 (笹川平和財団)  
 「現代中央アジアとアフガニスタン——国境を接する3か国を中心に」  
 Nurgaliyeva Lyailya (高崎経済大学)  
 “The China factor in Central Asia through its Belt and Road Initiative”  
 討論 湯浅 剛 (上智大学)  
 玉井 雅隆 (東北公益文科大学)
- B-4** 国際交流分科会 I 責任者 加藤 恵美 (帝京大学)  
 テーマ 自由論題  
 司会 斎川 貴嗣 (高崎経済大学)  
 報告 鈴木 勉 (青山学院大学)  
 「文化外交における『価値観』をめぐる一考察——戦後日本の国益概念の揺らぎを通して」  
 矢野 真太郎 (早稲田大学)  
 「1930年代の日中関係における経済交流——上海の銀行家の役割を中心に」  
 討論 芝崎 厚士 (駒澤大学)  
 段 瑞聡 (慶應義塾大学)
- B-5** 国際政治経済分科会 I 責任者 三浦 聡 (名古屋大学)  
 テーマ 「危機」における協力と対立の国際政治経済  
 司会 西谷 真規子 (神戸大学)  
 報告 舛方 周一郎 (東京外国語大学)  
 「ブラジルをめぐる域外大国のワクチン外交と国内の反応」  
 藤田 将史 (関西学院大学)  
 「Vienna Initiativeにおける民間金融機関—IMF間協力——民間主体と国際組織の協力による国家のガバナンス」  
 討論 古城 佳子 (青山学院大学)  
 大森 佐和 (国際基督教大学)
- B-6** 国連研究分科会 I 責任者 藤重 博美 (青山学院大学)  
 テーマ 平和に向けた国連による努力の諸様相  
 司会 上杉 勇司 (早稲田大学)  
 報告 石塚 勝美 (共栄学園大学)  
 「ミドルパワーの国連平和維持活動への参加に関する考察」  
 田辺 圭一 (東海大学)  
 「国連平和活動における中国の実利主義と『中国流平和』規範浸透の試み」

川口 智恵 (東洋学園大学)  
「国連の『持続的な平和』における『ビジネスと平和』の統合——BHR と B4P をめぐって」  
討論 上杉 勇司 (早稲田大学)  
武藤 亜子 (JICA 緒方研究所)

**B-7** 理論と方法 I 責任者 松村 尚子 (神戸大学)  
テーマ 戦争を研究する新たな視点  
司会 伊藤 岳 (大阪公立大学)  
報告 石黒 馨 (神戸大学)  
「限定戦争とエスカレーション——ロシア・ウクライナ戦争の分析」  
今田 将吾 (防衛研究所)  
「戦争の抑止に対する新たな方法論についての考察」  
討論 石田 淳 (東京大学)  
広瀬 健太郎 (新潟県立大学)

**B-8** アメリカ政治外交／東アジア国際政治史合同分科会 責任者 水本 義彦 (獨協大学)  
福田 円 (法政大学)  
テーマ 冷戦初期国際政治と規範  
司会 水本 義彦 (獨協大学)  
報告 八丁 由比 (九州工業大学)  
「国際連合憲章における人種平等原則とアメリカ」  
澤井 勇海 (成蹊大学)  
「判事のための国際政治——戦後日本・中華民国と国際司法裁判所選挙」  
KIM MINJUN (京都大学)  
「1967年のモラルジー・デーサーイーの訪日と日印協力」  
討論 小阪 裕城 (釧路公立大学)  
潘 亮 (筑波大学)  
溜 和敏 (中京大学)

**B-9** 国際統合分科会 I 責任者 東野 篤子 (筑波大学)  
テーマ 欧州主要国と「リベラル国際秩序」：ブレグジット、ウクライナ戦争の衝撃 (1)  
司会 中村 英俊 (早稲田大学)  
報告 池本 大輔 (明治学院大学)  
「リベラル国際秩序の危機とブレグジット——変わったもの、変わらないもの」  
吉田 徹 (同志社大学)  
「『ヨーロッパ・パワー』の限界——マクロン時代のフランス」  
討論 東野 篤子 (筑波大学)  
森井 裕一 (東京大学)

### 分科会セッション C (14:00～15:30)

**C-1** 日本外交史分科会 I 責任者 中島 琢磨 (九州大学)  
テーマ 日本・沖縄・韓国の米軍基地の連関性  
司会 太田 昌克 (共同通信)  
報告 成田 千尋 (立命館大学)  
「朝鮮国連軍と日本——有事時の支援をめぐって」  
井上 史 (早稲田大学)  
「朝鮮戦争・戦後米軍例外法体制下日本における国連軍地位協定をめぐる交渉」  
元山 仁士郎 (一橋大学)  
「『韓国条項』と『核密約』との関連性——単一統合作戦計画 (SIOP) の分析を中心に」  
討論 信夫 隆司 (日本大学)  
太田 昌克 (共同通信)

- C-2** ラテンアメリカ分科会 責任者 浦部 浩之 (獨協大学)  
 テーマ ラテンアメリカ外交とアジア太平洋地域  
 司会 子安 昭子 (上智大学)  
 報告 田中 秀一 (一橋大学)  
 「メルコスール地域主義の新局面——ウルグアイの一方的行為と『柔軟性ジレンマ』」  
 山岡 加奈子 (アジア経済研究所)  
 「2000年代以降のラテンアメリカ・カリブ関係——日本のソフト・balancing戦略とラテン  
 アメリカ・カリブ諸国の戦略的ヘッジング戦略の交差」  
 討論 勝間田 弘 (東北大学)  
 岸川 毅 (上智大学)
- C-3** ロシア・東欧分科会 II 責任者 長谷川 雄之 (防衛研究所)  
 テーマ 権威主義体制間の協力とネットワーク化——ロシア・ウクライナ戦争と「グローバルサウス」  
 司会 廣瀬 陽子 (慶應義塾大学)  
 報告 庄司 智孝 (防衛省防衛研究所)  
 「グローバルサウスとしての ASEAN——ウクライナ戦争への対応を中心に (仮)」  
 工藤 年博 (政策研究大学院大学)  
 「ミャンマー軍政と権威主義ネットワーク (仮)」  
 長谷川 雄之 (防衛省防衛研究所)  
 「プーチン体制と『グローバルサウス』——権威主義体制の変容と新興国・途上国への関与」  
 討論 廣瀬 陽子 (慶應義塾大学)  
 井手 康仁 (日本大学)
- C-4** 環境分科会 II 責任者 高橋 若菜 (宇都宮大学)  
 テーマ 変わりゆく東アジアの環境協力  
 司会 真田 康弘 (早稲田大学)  
 報告 飯嶋 佑美 (日本国際問題研究所)  
 「中国の環境外交と環境協力戦略」  
 中山 賢司 (創価大学)  
 「東アジア海域環境協力にみる沿岸域総合管理ネットワークとサブリージョナル・ガバナンス」  
 討論 毛利 勝彦 (国際基督教大学)  
 宮崎 麻美 (熊本学園大学)
- C-5** 中東分科会 責任者 千葉 悠志 (公立小松大学)  
 テーマ 政治的暴力と安全保障  
 司会 千葉 悠志 (公立小松大学)  
 報告 岡部 友樹 (大阪経済法科大学)  
 「レバノンにおける政治的暗殺と権力分有体制」  
 望月 葵 (日本学術振興会)  
 「難民のセキュリティゼーション——地中海域・中東をめぐる国境管理と『域外地域』構築の  
 動向」  
 討論 溝渕 正季 (広島大学)  
 小林 周 (日本エネルギー経済研究所)
- C-6** 院生・若手研究分科会 I 責任者 細川 真由 (京都大学)  
 テーマ 東アジア国際関係の動態——緊張と協調の 50 年  
 司会 長 史隆 (広島市立大学)  
 報告 王 同塵 (名古屋大学)  
 「『民国』への眼差し——日中戦争期における日本の三民主義をめぐる言説の系譜」  
 LEE SEOKMIN (イソクミン) (早稲田大学)  
 「在日民団育成をめぐる日韓協力、1966-1971——協定永住権促進をめぐる日韓政府協力」  
 龔 冰怡 (大阪大学)  
 「中国市場をめぐる日米競争——コンピューター輸出問題を中心に (1977-1982 年)」

討論 森 靖夫 (同志社大学)  
木宮 正史 (東京大学)  
和田 龍太 (東海大学)

**C-7** 国際交流分科会 II 責任者 加藤 恵美 (帝京大学)  
テーマ 自由論題  
司会 加藤 恵美 (帝京大学)  
報告 大嶋 えり子 (慶應義塾大学)  
「ユダヤ人コミュニティをめぐる言説——フランスにおける『共同体主義』概念の使用に関するムスリムとの比較検討」  
南波 慧 (高崎経済大学)  
「英仏海峡における『密航』と人道主義」  
討論 植村 充 (東京大学)  
堀井 里子 (国際教養大学)

**C-8** アフリカ分科会 責任者 矢澤 達宏 (上智大学)  
テーマ 自由論題  
司会 矢澤 達宏 (上智大学)  
報告 大門 (佐藤) 毅 (早稲田大学)  
「遅れてきたアラブの春——スーダン紛争をめぐる米ロ中関係と空間的相関の検証」  
佐藤 章 (アジア経済研究所)  
「サハラ以南アフリカにおける憲法、権威主義、権力闘争——コートジボワールの事例から」  
討論 福富 満久 (一橋大学)  
藤井 広重 (宇都宮大学)

**C-9** 東アジア／安全保障合同分科会 責任者 土屋 貴裕 (京都先端科学大学)  
栗田 真広 (防衛研究所)  
テーマ 北東アジアの対外政策  
司会 宮本 悟 (聖学院大学)  
報告 浅見 明咲 (防衛研究所)  
「金正恩政権における対外政策——『自主、平和、親善』と米韓への含意」  
楊 向峰 (嶺南大学)  
“Ugly Entanglements, Systemic Pressure, and the Fear of an Uncertain Future: Explaining China’s Muddled Response to the Ukraine War”  
石原 雄介 (防衛研究所)  
「日本の『戦後バーゲン』の再交渉——2つのニクソン・ショックと覇権秩序の多元化」  
討論 増田 雅之 (防衛研究所)  
井上 正也 (慶應義塾大学)  
宮本 悟 (聖学院大学)

◆11月12日(日)  
分科会セッションD (9:30~11:00)

**D-1** 国連研究分科会 II 責任者 藤重 博美 (青山学院大学)  
テーマ 国連における規範の発展と限界  
司会 滝澤 美佐子 (桜美林大学)  
報告 大内 勇也 (日本学術振興会)  
「国連における人権規範の変容——ピノチエト体制下の地理を事例に」  
山田 真弓 (立命館大学)  
「問われる国連規範の有効性——グローバルガバナンスの追求」  
討論 滝澤 美佐子 (桜美林大学)  
宮下 大夢 (名城大学)

**D-2** 安全保障分科会 I 責任者 栗田 真広 (防衛研究所)  
テーマ 自由論題

- 司会 栗田 真広 (防衛研究所)  
報告 李 乘漢 (神戸大学)  
「イスラエルの安全保障における全方位均衡論の適用——核兵器政策の不透明性と脅威認識を中心に」  
西川 由紀子 (同志社大学)  
「ハイブリッド戦争の特性とグローバルな対立構図」
- 討論 江崎 智絵 (防衛大学校)  
志田 淳二郎 (名桜大学)
- D-3** 欧州国際政治史・欧州研究分科会 II 責任者 小川 浩之 (東京大学)  
テーマ 現代欧州国際秩序・制度の新たな展開  
司会 山本 直 (日本大学)  
報告 斎藤 至 (国立研究開発法人 科学技術振興機構)  
「EU イノベーション政策の制度転換——Horizon Europe を中心に」  
安田 知夏 (東京大学)  
「現代 EU の文化政策——欧州委員会と欧州議会の機関間関係に着目して」  
吉崎 知典 (東京外国語大学)  
「同盟と欧州国際秩序——NATO 拡大とロシアのウクライナ侵攻をめぐる」
- 討論 遠藤 乾 (東京大学)  
川村 陶子 (成蹊大学)
- D-4** 国際政治経済分科会 II 責任者 三浦 聡 (名古屋大学)  
テーマ 国際秩序変動期の国際政治経済  
司会 三浦 聡 (名古屋大学)  
報告 韓 アラン (東京大学)、川瀬 朗 (京都大学)  
「自由貿易レジームの衰退期における国家間協力の形成過程——半導体輸出規制同盟を事例に」  
大谷 壮生 (一橋大学)  
「アクターの地位認識形成における『多国間』から『二国間』への視点移行とその含意」
- 討論 吉松 秀孝 (立命館アジア太平洋大学)  
阿部 悠貴 (熊本大学)
- D-5** 理論と方法 II 責任者 松村 尚子 (神戸大学)  
テーマ 武力紛争・危機の理論と方法  
司会 久保田 徳仁 (防衛大学校)  
報告 片桐 梓 (大阪大学)  
“Credibility Concerns and Crisis Escalation”  
窪田 悠一 (日本大学)  
「内戦における反乱軍の経済政策——規定要因と帰結」  
大村 啓喬 (滋賀大学)  
「内戦の終結、内戦の再燃、内戦後のジェンダー平等」
- 討論 稲田 奏 (東京都立大学)  
土井 翔平 (北海道大学)
- D-6** 国際統合分科会 II 責任者 東野 篤子 (筑波大学)  
テーマ EU の「リベラル国際秩序」：ブレグジット、ウクライナ戦争の衝撃 (2)  
司会 臼井 陽一郎 (新潟国際情報大学)  
報告 小林 正英 (尚美学園大学)  
「大国競争のなかの EU 安全保障政策——米英露中の挑戦」  
神江 沙蘭 (関西大学)  
「EU 複合危機とリスクシェアリング——資本市場と財政支援」
- 討論 武田 健 (青山学院大学)  
臼井 陽一郎 (新潟国際情報大学)

- D-7** 東アジア国際政治史分科会 I 責任者 福田 円 (法政大学)  
 テーマ 日中戦争期中国における日本情報・日本観  
 司会 川島 真 (東京大学)  
 報告 高柳 峻秀 (東京大学)  
 「重慶国民政府外交部の対日情報収集と日本論 (1938-1945)」  
 関 智英 (津田塾大学)  
 「対日協力者たちの日本理解・日本像」  
 討論 劉 傑 (早稲田大学)  
 団 陽子 (日本学術振興会)

### 分科会セッション E (11:15~12:55)

- E-1** アメリカ政治外交分科会 責任者 水本 義彦 (獨協大学)  
 テーマ 自由論題  
 司会 吉留 公太 (神奈川大学)  
 報告 草野 大希 (埼玉大学)  
 「介入主義の果てに——アメリカ対外政策における不介入主義の論理」  
 泉 淳 (東京国際大学)  
 「米国ムスリム 『9.11 テロ事件』以降の政治参加と政治志向の変容」  
 討論 森 聡 (慶應義塾大学)  
 前嶋 和弘 (上智大学)

- E-2** 日本外交史分科会 II 責任者 中島 琢磨 (九州大学)  
 テーマ 日本外交史の諸相  
 司会 高橋 和宏 (法政大学)  
 報告 李 睿哲 (京都大学)  
 「1928年国民革命軍の第二次北伐後の日中交渉と『後期田中外交』」  
 野間 俊希 (大阪大学)  
 「日韓国交正常化における管轄権問題——日本政府の対応と『相互黙認』案の成立」  
 肖 陽 (東北大学)  
 「中越戦争における日本の対ソ政策——大平正芳内閣の外交の再検討」  
 三代川 夏子 (東京大学)  
 「中曽根政権期の対外政策決定過程——外務省と他アクター間の競合」  
 討論 若月 秀和 (北海学園大学)  
 井上 寿一 (学習院大学)

- E-3** 欧州国際政治史・欧州研究分科会 III 責任者 小川 浩之 (東京大学)  
 テーマ スプートニク事件の多角的・多面的分析  
 司会 友次 晋介 (広島大学)  
 報告 河本 和子 (一橋大学)  
 「普遍の科学技術が示した未来としての社会主義」  
 板橋 拓己 (東京大学)  
 「西ドイツにおける戦略的思考の誕生」  
 小川 浩之 (東京大学)  
 「イギリスにおけるスプートニク事件の影響——対外政策・科学技術・市民社会」  
 討論 松村 史紀 (宇都宮大学)  
 倉科 一希 (同志社大学)

- E-4** 政策決定分科会 II 責任者 齊藤 孝祐 (上智大学)  
 テーマ 国際秩序形成をめぐる政策決定——短期、中期、長期的分析  
 司会 齊藤 孝祐 (上智大学)  
 報告 松本 明日香 (東北大学)  
 「アメリカにおける情報産業をめぐる決定過程——トランプ政権からバイデン政権における対中摩擦とその変遷」



- 山口 航 (帝京大学)  
「価値外交の系譜における『自由で開かれたインド太平洋』」
- 中谷 直司 (帝京大学)  
「『平和的な秩序変更』の理論は政策決定の規範的な枠組となり得るか」
- 討論 佐橋 亮 (東京大学)  
齊藤 孝祐 (上智大学)
- E-5** 院生・若手研究分科会 II 責任者 細川 真由 (京都大学)
- テーマ 「分断」を超えて——冷戦終結後の世界へのまなざし
- 司会 富田 健司 (九州大学)
- 報告 李 強 (島根県立大学)  
「南北朝鮮国連同時加盟の政治過程をめぐる『中国決定論』の検証」  
中條 紘大 (広島市立大学)  
「民主主義規範の受容と拒絶——1990年代のCSCE/OSCEの事例分析」  
永田 理乃 (九州大学)  
「関係性に根ざした平和構築の実践——ボスニア・ヘルツェゴビナの事例から」
- 討論 平岩 俊司 (南山大学)  
宮脇 昇 (立命館大学)  
中内 政貴 (上智大学)
- E-6** 安全保障分科会 II 責任者 栗田 真広 (防衛研究所)
- テーマ 経済安全保障の諸相
- 司会 三浦 秀之 (杏林大学)
- 報告 松本 栄子 (拓殖大学)  
「米国のロシアに対する経済制裁——経済相互依存の視点」  
平木 綾香 (慶應義塾大学)  
「米国の安全保障の変遷——CFIUS改革から考察する」
- 討論 三浦 秀之 (杏林大学)  
松村 博行 (岡山理科大学)
- E-7** 東アジア国際政治史分科会 II 責任者 福田 円 (法政大学)
- テーマ 中国・香港をめぐる人の移動と国際政治史
- 司会 福田 円 (法政大学)
- 報告 古泉 達矢 (金沢大学)  
「第一次世界大戦期における華工の徴募・支援事業への在華宣教師の関与」  
黄 偉軒 (京都大学)  
「『香港ネットワーク』の冷戦期日本外交における役割」  
長谷川 奈々 (早稲田大学)  
「香港政庁の対中国『不法移民』政策を規定した要因、1971-1984年」
- 討論 倉田 徹 (立教大学)  
塩出 浩和 (城西国際大学)
- E-8** 平和研究分科会 責任者 二村 まどか (法政大学)
- テーマ 平和と武力行使をめぐる政治と法
- 司会 二村 まどか (法政大学)
- 報告 志村 真弓 (立命館大学)  
「強制外交における大国の行動の自由と国際法的制約——『意思または能力を欠く国家』論の国際政治学的分析」  
井上 実佳 (東洋学園大学)  
「国際平和活動の変容とソマリア——国連とAUの『パートナーシップ』はなぜ生まれたか」
- 討論 大西 健 (防衛研究所)  
山本 慎一 (香川大学)

## ■編集後記

ようやく新型コロナが収まったら、今度は酷暑となり、自然の力を改めて感じます。早くも秋が恋しい、今日この頃です。(IK)

アカウントなしでツイッター閲覧ができなくなっているようだ。政治学のものを定点観測し、業界世論を把握したり自分語りを愉しんでいたのが残念。こんな時こそ情報媒体たる本誌の出番!?(HW)

研究大会も元の形に戻りつつあります。研究大会に関する最新の情報は随時ウェブページに掲載いたしますので、そちらもご確認ください。(SK)

日本国際政治学会ニューズレター No.176  
(2023年8月3日発行)

発行人 飯田 敬輔

編集人 倉科 一希・和田 洋典・小林 哲

〒187-0045 東京都小平市学園西町1-29-1  
一橋大学小平国際キャンパス国際共同研究  
センター2階 客員教官研究室3

日本国際政治学会 一橋事務所気付

倉科 一希 [jair-pr☆jair.or.jp](mailto:jair-pr☆jair.or.jp)